

様式第2号（第7条関係）

会 議 録

会 議 の 名 称	第3回川島町行政改革推進委員会	
開 催 日	平成26年9月11日（木）	
開 催 場 所	川島町役場 第2庁舎第1会議室	
議 題	(1) 第3次川島町行政改革大綱第3期行動計画について 進行管理表について (2) 中間報告について (3) その他 次回会議日程について	
公開・非公開の別	公 開（傍聴者2名） ・ 非公開 ・ 一部非公開	
非公開の理由 （非公開の場合のみ）		
出席者	委 員	平委員、西村委員、今井委員、河邊委員、青波委員、森谷委員、高倉委員、清水委員、根岸委員
	事務局職員	政策推進課 石川主幹、中尾主査、品川主事補
配布資料	会議次第、第3次川島町行政改革大綱第3期行動計画及び進行管理表、第3次川島町行政改革大綱第3期行動計画及び進行管理表の評価について、川島町行政改革大綱について（中間報告）、平成26年度行政改革のスケジュール	
審議会等の内容・概要		
1. 開 会 （事務局より会議の開会にあたり、川島町審議会等の会議の公開に関する要綱に基づき、会議は原則公開であることを説明する。なお、会議録を公開するが、発言委員名は記載しない旨で委員より了承を得る。） 2. あいさつ 3. 議 事 （事務局より本日の会議の流れ及び今後のスケジュールについて説明。）		

(1) 第3次川島町行政改革大綱 第3期行動計画進行管理表について

会 長：議事に入る前に、議事録署名委員を指名する。青波委員と清水委員にお願いする。早速進行管理表について項目ごとに委員の方々のご意見、質問等を伺いたい。

委 員：評価項目2 環境負荷の低減について、補足説明資料には平成25年度・平成26年度ともに現状の分析とあるが、具体的にどこまでが平成25年度でどこからが平成26年度なのか、ハード面の準備ができていないのか表現として分かりづらい。また住民の節電意識も高まっている中で行政として、どれだけのスピードを持って取り組んで行けるのか、負荷の低減はLED化だけではないということなど、それらの取り組み姿勢を前面に出すような表現にしてみてもどうか。

会 長：この場で表現について議論をするのは時間が掛る為、考え方について、事務局にお答えして頂きたい。

事務局：分析については新庁舎を含めた各施設において電力量の調査を実施している。具体的な取り組みについてはエコアップ推進委員会に諮り、項目立てできるものから取り組むことと、現状の取り組みの成果については来年度実績に盛り込むように検討したい。

委 員：平成25年度と平成26年度の表現の差が分かりづらい。ハードに掛かる工数やコストがあるからこそその分析であるから、そうでないならばもう少しスピードを上られるのではないかと。調査・検討・実行に2,3年も充てず、できるものから実行していくということを表現すればいいのではないかと。

会 長：即実行できるものと、時間が掛るものがある。事務局は表現の修正をすること。

会 長：評価項目6 人事管理制度の充実について、課長職への勤勉手当に反映とあるが、課長だけなのかという疑問が出てきてしまい、もう少し丁寧な説明をしないと誤解を招く恐れがあるのではないかと。

事務局：勤勉手当というのは全職員が対象であるが、人事考課制度の結果を反映するのは課長職からということであり、今後段階的に課長以下の職員の勤勉手当にも反映していく。

会 長：ということは、実際課長以下の職員の勤勉手当に反映されるのは平成27年

度以降になるということなのか。

事務局：その通りである。

委員：具体的には勤勉手当にプラスするのか、勤勉手当の中で割合を変えるのか。今までは人事考課制度の結果は勤勉手当の評価項目に無かったのか。

事務局：今までの勤勉手当の総額の中で、今後多くなる課長と少なくなる課長がいる。この制度自体が運用開始後間も無い為、慎重に行っていく必要がある。今年度は課長職、来年度以降は管理職という流れで対象を広げていく。

会長：内容は理解できたが、この表現だと新たな手当が増えるような印象を受ける。

委員：課長への勤勉手当に反映という表現を、課長職の勤勉手当に反映とするのが適切ではないか。

委員：人事考課というのは曖昧な部分があり明確にするのはなかなか難しいが、町民に向けて制度の基準を明確にし、公開した方がよいのではないか。

委員：「人事管理・異動への反映」という表現よりは「人事管理・異動への適正な反映」という表現の方がよいのではないか。

会長：事務局で表現の修正を検討をすること。

会長：評価項目7 職員の能力向上・意識改革について、ラインケアという表記があるが、表現が一般的ではないのではないか。

事務局：一般的に理解できるような表現に変更する。

委員：職員の研修というのは全て勤務時間内で行うということか。

会長：主任昇任試験など昇任に係る研修については勤務時間外、その他の研修については勤務時間内に行っている。

委員：研修を受ける側と受けさせる側とで意識の違いが生じている場合がある。行政の場合は研修費用も税金から支払われるのだから、研修費用の使い分けをすると効果が高まるのではないか。参考にしていきたい。

委員：評価項目9 町税等の収納率向上について、補足説明資料に県92.8%とあるが県内平均が92.8%ということによいか。

事務局：数値については分かりづらい為、補足説明をさせていただく。川島町は現年度税金の収納率は県内でも高い方であるが、これには前年度までの滞納分は含まれていない。それらを含めると数パーセント低下してしまう。

委員：「※現年度分」など文言を加えた方がよいのではないか。

事務局：分かりやすい表現に修正する。

事務局：評価項目 1 2 町民・企業と連携した公共サービスの充実（図書館）について、平成 24 年度の入館者数に修正があり、それを受けての平成 25 年度の前年度対比 2.2%という数値である。

委員：行動計画の内容に公共サービスの充実を推進とあるが、平成 26 年度の取り組み内容では「充実」を「検討」へと変更しているが、充実を目標としていたものを検討という言葉で締めくくるのはいかがなものか。グレードダウンのイメージがある。

事務局：第 3 期の行動計画時点では充実を推進していくということであったが、平成 25 年度のあり方研究会の報告を受け、まだ充実という段階には達していないという結論に至った。この為、行動計画の内容修正も含め考えたい。

委員：図書館を生涯学習・情報の場と捉え、図書の貸出のみという括りだけではなく、将来的には幅広い総合的な施設・サービスを提供した方がより町民の為の施設になるのではないか。ぜひ検討していただきたい。

委員：評価項目 1 3 電子自治体の推進について、コピー用紙の使用実態についての分析とあるが、改善策についての策定や前年度のように具体的な数値目標を設定しないと、また振り出しに戻ってしまうのではないか。分析から一歩踏み込んで、どのような取り組みを行うのか伝わる表現にするべきである。

会長：事務局には修正をお願いする。

委員：評価項目 1 4 窓口サービスの向上について、窓口アンケートであるから窓口での接遇などについての満足度がアンケート結果に反映されているのだろうし、もちろんそれは大切なことであるが、窓口サービスという広い部分で見ると、町民の願いは利便性というところにあるのではないか。次回のアンケートには是非利便性についても盛り込んでいただきたい。

会長：窓口サービスの見直しとあるが、窓口サービスの内容というよりは方向性を見直しとした方がよいのではないか。表現の修正をお願いする。

会長：評価項目 1 5 情報公開の推進について、パブリックコメントの活用とあるが、現状では町民のみなさんに意見を求めて、集めた意見にどのように対応しているのか。

事務局：ホームページ上で取り扱いについて回答している。

委員：障がい者・外国人にも配慮した情報の提供について検討するとあるが、具体的には何をするのか。障がいの種類、外国人も様々であり、すべてに配慮するというのは不可能であるから、ある程度方向性を決めた方がよいのではないか。

事務局：現状の町のホームページを更新するにあたり、様々な障がいや外国語に対応する方向で進めている。

委員：外国人向け対策としては、あまりに多言語になってしまうと手が付けられなくなってしまう為、英語だけでも十分ではないだろうか。

(2) 中間報告について

事務局：本日の推進委員会で確認していただいた内容で、第3期行動計画の平成25年度実績及び平成26年度の取り組み内容について町長に報告する。尚、中間報告の文章中の「2 まとめ」に進行管理表を添付とあるが、会議資料として使用した進行管理表を添える。また、本日いただいたご意見を反映した進行管理表について平会長と西村職務代理に最終確認をしていただき、中間報告に添えるということで了承をいただきたい。

会長：評価項目12の図書館の部分で実際には当初の計画より遅れているが、評価は成果指標で測るため、反映できない仕組みになっている。3年終わった後に行動計画の内容が達成できたのかどうかという評価を加えないと、誤った結果になってしまう。

委員：「行動目標と行動計画の内容が一致していない項目が散見される」とあるが、見られるくらいの表現でいいのではないか。また、最小の経費で最大の効果とあるが、経費をかける必要がある事業もあるのだから、最小という表現ではなく、最適や適正という表現の方がいいのではないか。

会長：事務局で修正をお願いしたい。

委員：現在はPCからのプリントアウトよりもカウンターチャージの方がコストは高い。つまりは必要枚数を直接プリンターからプリントアウトするより、1枚プリントアウトしてコピーをする方がコストは高い。またこのことによる環境負荷は無いと専門家も言っているので、検討してみると次に生かせるの

ではないか。参考にさせていただきたい。

事務局：文言についても、平会長と西村職務代理に最終確認をいただき、事務局から提出をさせていただくことをご了承いただきたい。

委員：第4次大綱についてだが、住民サービスの充実について追加してほしい。当初いただいた資料に人口ピラミッドの資料があり、興味を持って見た。年代別推移が男女別であったが、その特性が顕著にあらわれている部分があった。人口の増減や働き盛りの流入、人口の先細り、20年前の0歳児人口が20年後にはどうなっているのかなどに切り込んで提言できるとよい。

委員：行政改革とは違うので難しいが、そういう目で見ると公開の場で議論されるべきではないのか。

会長：社会・経済情勢の変化に行政としてどれだけ柔軟に対応できるのかというのは行政改革のテーマとなる。

委員：人口減少というテーマはどこの自治体も抱えている。削るだけでは後ろ向きの改革になってしまい、税収も人口も減ることになってしまう。まちづくりの視点も入れながら、行政改革ができるといいのではないか。川島町にまちづくりの審議会などがあるのならば、合同で審議などしてもよいのではないか。

委員：住民サービスという面では高齢化が進んでおり、バスもあるが、本数が少ない。インターネット・近くの公民館を利用した住民票・印鑑証明の取得。現在の行政改革の内容は住民には細かすぎる。

事務局：来年度にはマイナンバー制という話もあり、コンビニでの住民票交付も検討もされてはいるが慎重に検討しなくてはならない。

委員：この街は駅が無いということが言い訳になっており、それを理由に何もしないというのはよくないと思う。これからの日本に必要なことが、川島町において早期に実現できるかもしれない。

(3) その他


事務局：次回会議について、10月下旬～11月上旬で検討中。本部会議、庁内推進チーム会議後に実施予定。詳細は別途連絡する。

4. 閉会

署

名

青波 宏一 

清水 芳明  印